



8がつのほけんだより



令和8年8月3日

天沼保育園

看護師

学校は夏休み、会社の夏季休暇の方もいらっしゃり、いよいよ夏本番となりました。子どもたちは旅行や帰省、プールや花火など楽しい予定を心待ちにしてお話ししてくれます。事故や怪我のないように、そして酷暑日が続くようなので熱中症対策は万全にして、楽しい思い出をたくさん作ってください。

7月の様子

6月に入ってから流行していた手足口病は7月6日以降新規感染者がいなくなり、保健所からも「今回の手足口病は終息したと考えます」と言っていただきました。手足口病が治ってからしばらくして爪が取れたり、皮がむけたりしているお子さんがいらっしゃいますが、感染していたお子さんは皆さん元気になりました。早めに受診して下さったり、症状がひどい時にお休みをしていただくなど、ご協力いただけたおかげで終息することができたと思います。本当にありがとうございました。手足口病が落ち着いたと思った頃から、38～39℃の発熱や咳の続いているお子さんが数名いらっしゃいます。ヒトメタニューモウイルス感染症が流行している地域もあるようです。昼間だけでなく朝夕も暑いので、睡眠が十分にとれず疲れが溜まっている様子がみられ、そうすると抵抗力がさがってしまいます。楽しい予定もたくさんあると思いますが、お休みの日に涼しいおうちでゆっくりと過ごすことも大切にしてください。

花火は楽しく安全に！

毎年、花火でやけどをしてしまう方が数名いらっしゃいます。国民生活センターの情報では特に3歳以下のお子さんの事故が多く発生しているようです。3歳以下のお子さんに花火を持たせることは避け、花火をやる前にお子さんとルールの確認をしてから行うようしましょう。



花火のルール（一部です）※日本煙火協会や国民生活センターのサイトを参考にしてください

- ・必ず大人と一緒にやりましょう
- ・一度にたくさんのお花火に火をつけないようにしましょう
- ・終わったらすぐに水につけましょう
- ・花火をやる時はスカート・浴衣・ヒラヒラのリボンやレースのついた服（特に袖口や裾が広がっている服）は避けましょう
- ・火花が落ちることがあるので、肌の見えるサンダルは避けましょう
- ・花火は分解したら爆発することがあります。分解しないようにしましょう
ポケットに入れると分解してしまう可能性があるため、入れないようにしましょう

花火の事故の例

- ・花火で遊んでいる最中に火をつかもうとした
- ・サンダルを履いていて終わった花火の灰が落ちた
- ・スカートや浴衣の裾にろうそくの火が燃え移った
- ・濡れた地面に線香花火がおちて爆ぜた
- ・落下した花火を拾おうとした
落ちた直後の燃えかすは600℃。30秒後も200℃あるそうです
- ・風下にいて火の粉が飛んできた

など



8月の予定

身体測定

6日	かもめ
7日	いるか
10日	くじら
13日	ペンギン
14日	らっこ

※日程は変更になることがあります

